

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、  ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教職教育研究センター(教務機構)
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教職課程履修者への指導・相談体制を強化(神戸三田キャンパスとの格差是正を含む)するために、教職員の増員等を含んだ具体的施策を推進する。	→学生相談室を中心とした教職課程全般にわたる学生支援の強化。スクールサポーター、スクールボランティア、スクールインターシップ等へ参加する学生支援のための事前・事後指導の実施。教員採用試験に向けての学生支援(「教職勉強会」への教員の関わりの強化)。専任教職員の配属による神戸三田キャンパスにおける学生支援活動の充実。	B	B	B	B	B
2. 教育委員会等との連携により、教育研究活動の活性化を図る。	→連携協定を結んでいる教育委員会等との共同研究の推進。国及び地方自治体の要請に応じたセンター教員の派遣。教員免許更新講習、教職10年経験者研修の実施。受託研究員の受け入れ。	A	A	A	A	A
3. 同窓教員との連携強化を図るために、同窓教員対象の「教職研究会」を主催・共催するとともに、同窓教員を対象としたSNS(social networking service)を拡充していく。	→高弦会(兵庫県高等学校同窓教員の会)、関学教師の会(高弦会を含む、校種、地域を問わない同窓教員の会)等の同窓教員組織との連携強化。同窓教員を対象とした研究会の充実(現在は年6回開催しているが、これを年8回開催に増やす)。同窓教員を対象としたSNSの拡充(現在は参加者数10名であるが、これを200名に増やす)。	A	A	A	A	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 毎週火曜日および金曜日の2・3限目を中心に行われている「教職勉強会」を、専任教員ほか学生相談室の職員が面接試験対策や模擬授業などを指導するとともに、適切なアドバイスを与えている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生がより主体的に、自らの目標を設定して模擬授業や面接練習に取り組むようになったが、教員採用試験に合格する学生数にはまだ十分反映されていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か さらに多くの学生が参加できるように広く呼びかけ、より多くの学生が教員採用試験に合格できるようにしたい。	☆
		その他	☆
			☆
目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 毎年、専任教員が兵庫県教育委員会の依頼を受け、教職10年経験者研修を実施している。また、文部科学省認定の教員免許更新講習を実施している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教員の研修・講習に関しては全体として参加者も多くあり、十分な成果を上げていると思われる。できれば、さらに多くの人が参加できるようにしたい。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教員免許更新講習に関しては、開講クラスにより受講希望者の少ないものがあり、講習内容や名称を再検討したい。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 高弦会、関学教師の会は毎年開催している。また、同窓教員を対象とした研究会も年6～7回実施している。いずれも専任教員が同席し、充実した会の運営に従事している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 関学教師の会、及び研究会の参加者の数は目立って増えてはいない。一つに多忙化する教職現場の実情があるが、これを増やすことが課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 高弦会や大阪関学教師会(関学の公認同窓組織)などを通して、積極的な参加を促したい。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆